

皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。保護者、ご家族の方々に対しましても、本日ご列席いただきましたことに感謝を申し上げるとともに、祝意をお伝えいたします。

卒業される皆さんは、これから社会人ということになります。大学院に進学するなど学びを続けられる人もいますが、大学生とは違い、ほぼ社会人と見なされるでしょう。社会を支える個人となっていくわけですが、社会は今大きな変革期にあり、この大きな変革によって新しい社会が来ると言われています。

それは、超スマート社会です。内閣府が策定した科学技術基本計画において、世界に先駆けて超スマート社会を実現しようと提唱しています。超スマート社会は人類の歴史における 5 番目の社会ということで、Society 5.0 という言い方もされています。では、4 番目まではどんな社会でしょうか。

人類の誕生は 600 万年前とも 700 万年前とも言われていますが、そのほとんどは自然にあるものを取って食べることを基本とする生活でした。正しくは狩猟採集社会というべきでしょうが、「狩猟社会」と呼ばれます。人類を他の動物から飛躍的に変化させたのは、1 万年から 2 万年前に起きたと考えられている、農業や牧畜の始まりです。この 2 番目の社会「農耕社会」において、安定して多量の食糧を生産できるようになり、4 大文明などの文明が始まりました。そして、今から 250 年ほど前にイギリスで産業革命が始まり、3 番目の社会である「工業社会」になりました。

いま我々はコンピュータと、コンピュータを結びつけるインターネットが普及した 4 番目の社会「情報社会」に生きています。情報社会と呼べるのはここ 30 年程のことに過ぎません。私のような年齢の者には、情報社会がまだ始まったばかりのような感覚があるのですが、もう次の 5 番目の社会の到来が語られているというわけです。

では、5 番目の社会として提唱されている超スマート社会とはどういう社会でしょうか。ここでのスマートは、賢い、手際が良い、といった意味です。さまざまな「モノ」がインターネットを介してつながり、それらが高度にシステム化されて質の高いサービスがやり取りされる便利な社会ということのようです。

自動車で考えるとわかりやすいかもしれませんが。情報社会においては、ナビやスマホにより現在位置、目的地までの経路、道路の混雑情報など、自動車の運転に必要な様々な情報を得ることができます。そういった情報をもとに人間が運転しています。一方、超スマート社会では、運転自体も機械が行う自動運転になります。スマート、すなわち賢いのは人間ではなく機械です。ただし、自動車だけが賢くなるのではなく、現在位置を知るためのGPS人工衛星や道路周辺に張り巡らせた様々なセンサーと情報発信装置、道路情報や過去の事故情報などを膨大に蓄積したコンピュータ、それらの機械同士が情報のやり取りをするネットワークシステムが全体として、とても賢い社会を作り出すということになります。

言い換えれば、膨大な情報を受け取るだけでなく、膨大な情報を分析して何をしたらよいかまで考えてくれるのが超スマート社会のようです。超スマート社会という言葉が定着するかどうかはわかりませんが、自動運転は実用化に向けて進み始めていますし、大きな変化が進んでいるのは事実です。

そういった変化の一つが、シェアリング・エコノミーの拡大です。シェアリング・エコノミーは既に使われている言葉で、企業や店舗を介さないモノやサービスの個人間の取引を指します。企業が作った服を店で買うのではなく、古着や自分で作った服を他人に直接売ったりすることです。皆さんにとって身近なのはフリマ・アプリでしょう。日本で多くの人が利用しているのはフリマ・アプリくらいですが、世界的に見ればシェアリング・エコノミーの日常的な利用がどんどん進んでいます。他人を自家用車で送ってお金をもらうタクシー代わりのサービス、家の空き部屋を宿泊場所として提供してお金をもらう民泊サービスなどです。

シェアリング・エコノミーはシェアする経済ということですが、ルームシェアと言ったりするように、シェアには分配する、とか、共有する、という意味があります。シェアという言葉はSNSでも、情報や投稿を共有するときに使われています。IT革命の中にある現代において、シェアという言葉がキーワードのように頻繁に使われていることは、私にはたいへん興味深く感じられます。

シェアすることは、元々人の生活の基本でした。文明が始まる前の人類の基本的な生活は、先ほども言ったように、他の動物と同じように自然にあるものを取ってきて食べる狩猟採集生活です。各個人がそれぞれ食べ物を手に入れていたのかということそんなこ

とはなく、集団すなわち群れのメンバーがグループに分かれて、それぞれのグループが取ってきた食べ物を持ち寄って分け合っていたと考えられています。

グループで狩りをする事で一人では倒せないような獲物を得ることができるだけでなく、どこにどんな食べ物があるのかという情報をシェアすることができます。そして、食べ物を持ち寄りシェアすれば、食べ物にありつけないということがかなり少なくなりますし、バランスの良い食生活を送ることができます。人類が成功した理由として、知能の高さや道具の発明などが重要であったのは当然ですが、食べ物のシェアもまた大きな要因の一つです。

農業が始まって、シェアすることはやはり人間の生活の基本でした。機械の無い時代には農作業にはたいへんな労力が必要でしたから、労働力のシェアが重要になりました。田植えや刈り取りは村人共同で行っていましたし、水を引くための水路を作るといった作業も協力して行う必要があります。お金ができて色々なものが売り買いされるようになり、労働もまたお金をもらってするようになっていきます。しかし、貨幣経済が浸透してからも、シェアすること、すなわち分配したり共有したりすることはあたり前のように行われてきました。日本においてもつい最近まで、たくさん作ったおかずを近所に持っていく、自分の家にはない道具を近所から借りることは珍しいことではありませんでした。

皆さん自身が今、近所で食べ物を分けたり道具を借りたりすることはあまりないでしょうから、昔の習慣に思えるかもしれませんが、皆さんも友達やグループで集まった時には持ってきたお菓子を分け合って食べるほうが普通でしょう。

なぜ人間は分け合うのでしょうか。もちろん、独り占めしては反感を買うので仕方なしに分け合うということもあるでしょうし、自分一人で持つよりも、必要なときに分け合う、貸し借りする方が効率が良いというのも大きな理由でしょう。それと同時に、みんなで分け合って共に食べること自体を楽しく感じるとか、他の人に貸したり、あげたりすることで人の役に立つのがうれしいという気持ちもあるのではないのでしょうか。こういったシェアする喜びの気持ちは、狩猟採集生活をして食べ物を分け合っていた大昔からずっと人類が持っている基本的感情だと思います。

私たちは今、一人で生きることが可能であるかのように感じています。しかし、一人

で生きることができるのは、アパートやマンションが建てられており、水道ガス電気のインフラが維持され、コンビニやスーパーという流通システムがあるからです。多くの人の共同作業で作られ、日々維持されています。

大規模な商業システムの中で生活しているため、我々の生活が、知っている人や知らない人様々な人同士の協力の上に成り立っているということを忘れてしまいます。フリマ・アプリやカーシェアと言ったシェアリング・エコノミーは、お金を介しているのですが、昔ながらのシェアではなく商業の一つの形態ですが、シェアすることが生活の基本であったことを思い起こさせてくれます。また、SNSにおいて情報をシェアして、同時にその時の感情をシェアすることは、人々が昔から情報や感情をシェアしてきたことと本質的には同じでしょう。

想像もしなかったような技術革新によって大きな変化の中にある社会に、皆さんは出ていくこととなります。変化に目を奪われるのは当然ですが、シェアという言葉が示すような人間の変わらぬ部分にも目を向けてもらえればと思います。

最後にもう一つだけ付け加えることがあります。それは、もしも皆さんが変化する社会に疲れて一息つきたいと思ったとき、気分転換したいと思ったときは、卒業後でもぜひ大学を訪れてほしいということです。我々大学教職員は卒業生の皆さんを歓迎いたします。本学は六甲山のふもとの高台という、街の中心部から一步離れた場所にあり、チャペルを中心に心を落ち着かせることのできる雰囲気です。今後もその雰囲気を大切にしたいと思います。卒業した皆さんが帰ってきて、この大学の雰囲気を皆さんと再びシェアすることを楽しみにしています。